

# 有明海漁業実態調査

## ウミタケ浮遊幼生調査

野田 進治・佃 政則

有明海佐賀県海域におけるウミタケ資源の動態を把握するため、ウミタケ浮遊幼生調査を行ったので概要を報告する。

### 方法

ウミタケ浮遊幼生調査は、令和3年10月13日～11月26日の間に7回、満潮の前後3時間内に図1に示した3定点で実施した。

各地点で北原式定量プランクトンネットを一部改良した目合60 $\mu$ m、口径46cmの上部キャンパスがない金属アイマー付きのネットを用いて、海底から表層まで鉛直曳きを行った。濾水後の試料は、250mLポリ瓶に回収し、グルタルアルデヒドで固定して室内に持ち帰り、試料の10分の1量を検鏡し、ウミタケ浮遊幼生の個体数及び殻長を測定した。なお、130 $\mu$ m以下は他の2枚貝幼生と判別がつきにくいため、測定個体数には含めなかった。

### 結果

表1に調査日と調査地点の水深を示す。また、図2に調査地点別ウミタケ浮遊幼生の出現個体数の推移を示す。St.1では10月13日及び19日は出現がなく、10月29日から徐々に増加し、11月11日に72個体/m<sup>3</sup>とピークを迎え、11月19日には減少に転じ、11月26日には再び0個体/m<sup>3</sup>となった。St.2では10月13日から11月11日まで低位で推移したが、11月19日に急激に増加し67個体/m<sup>3</sup>とピークを迎え、11月26日には減少に転じた。St.3ではSt.2と同様な傾向を示し、10月13日から11月11日まで低位で推移したが、11月19日に急激に増加し79個体/m<sup>3</sup>とピークを迎え、11月26日には減少に転じた。以上のように、今年度のウミタケ浮遊幼生の出現個体数が多い時期は11月中旬であった。

今年度の各地点における最大出現個体数は、St.1で72個体/m<sup>3</sup>、St.2で67個体/m<sup>3</sup>、St.3で79個体/m<sup>3</sup>と、前年度の最大出現個体数であるSt.1で161個体/m<sup>3</sup>、St.2で91個体/m<sup>3</sup>、St.3で83個体/m<sup>3</sup>と比較すると、いずれの地点も少なく、令和元年度から減少傾向にある。

図3に調査日別殻長頻度組成を示す。複数のモードがみられたことから、産卵期間に幅があり、数回の産卵に起因することが伺えた。

### 文献

- 1) 野田進治・佃政則(2019)；ウミタケ等適正生息環境調査（ウミタケ浮遊幼生調査），令和元年度佐賀県有明水産振興センター業務報告，p39-40.
- 2) 野田進治・重久剛佑・佃政則(2021)；ウミタケ等適正生息環境調査（ウミタケ浮遊幼生調査），令和2年度佐賀県有明水産振興センター業務報告，p30-31.

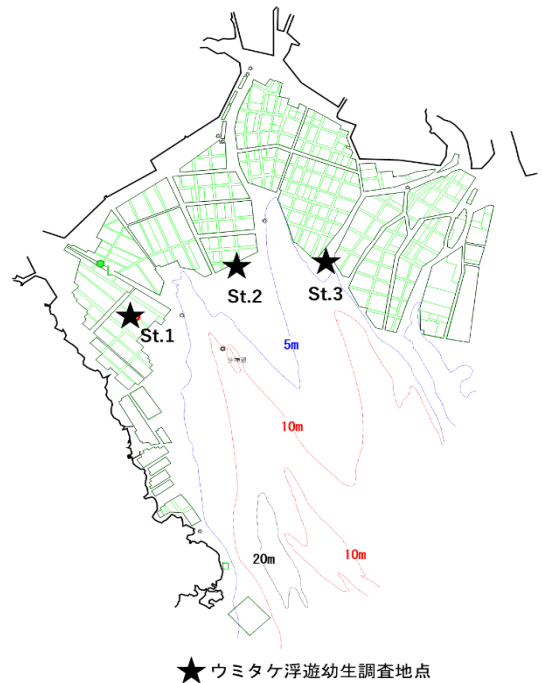


図1 ウミタケ浮遊幼生調査地点

表1 調査日と調査地点の水深 (m)

	St.1	St.2	St.3
10月13日	4.6	5	8
10月19日	5	5.1	9.2
10月29日	4.4	4.7	7.6
11月5日	6.1	6.4	9.1
11月11日	5	5.5	8.3
11月19日	5.8	6.3	9.1
11月26日	5	5.6	8.2

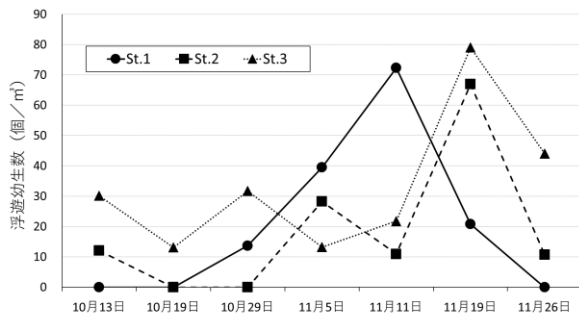


図2 ウミタケ浮遊幼生の出現個体数の推移

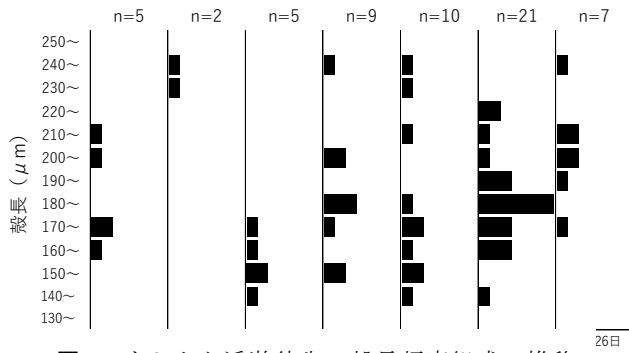


図3 ウミタケ浮遊幼生の殻長頻度組成の推移